



自分の山を登る

To Be Yourself

永田円了

自分を生きたい、でもなかなか生きられない。学歴、高収入、マイホーム、加えて社会的評価、これが自分が生きた証しと言えるのか。自分を生きるとは一体どういうことなのか。自分の山を登るとは？

自分の価値を何によって決めるのか

自分の価値を何をもって決めたらいいのか。周りの評価で決めるのか、名刺の肩書きか、履歴書に羅列してある学歴や過去の業績か、それとも何々賞受賞と新聞に載ったことで決めるのか。

「外からの評価で自分の価値を決めるように考えるなら、私は監督を辞めます」と、映画監督スティーブン・スピルバーグは言った。また仏哲学者サルトルは言った。「人は自分の中に他人の目を入れると地獄を見る」と。このように社会的評価で自分の価値を決めることを「他人の山を登っている」という。

では逆に、自分の価値は自分で決めるぞ！と叫ぶ人は、単に我（エゴ）をはっているだけ。一般的には、人は社会的評価もほしい、でも「自分の山も登りたい」と、漂う人になっている。「自分を生きる」とはかくも容易ではない。

◆現代人の「5つの間違い」

1. 自分で生きている
2. 人間は偶然によって発生した
3. 死んだら灰になっておしまい
4. 人間の価値は社会的な評価や力
5. 他人の山を登るのが生きる道

樹木希林のメッセージ

ショービジネスの世界で、自分の山に登り続けることは容易なことではない。大事なファンに見放されるのではないか、という不安と恐怖が絶えず現れる。しかし一流のプロはこの不安を乗り越える。そして自らの中から沸き上がる意識と情熱でファンの心に響く作品を作り続けているのである。

樹木希林さん（享年 75 歳）もその一人。「私、役者をやるために人間やってるんじゃない。人間をやってゆく生業（なりわい）として役者をやっているの」。自分のど真ん中に、いつも“人間として生きる”意識がある人の言葉は美しい。

一方、歌手という職業ひとすじに生きた人がいる。美空ひばり（享年 52 歳）、52 年の生涯を歌に捧げ、多くのファンを魅了し、しかしその情熱の故に無理をした。何かあっても約束の舞台に立たねばならぬ。ファンをガッカリさせてはならない。他者の目が自分の目より優先した歌手人生、一見美談として語られることながら、自分の山、自分のど真ん中、加藤和枝（本名）をどこかに置き忘れてきたことの反動はかくも哀しい結果を生み出した。

<事例 DVD>

笹田信五、自分の山を登る NHK ころの時代 2002 年
 カリスマ美容師・高木琢也(33) NHK プロフェッショナル
 美尻トレーナー・岡部 友(33) NHK プロフェッショナル
 アンミカ パリコレ/コンボジ撮影/自分の山を登っているかチェック
 女流プロ棋士・高橋和（やまと）/他人の山を登っていたことに気づく
 欲望の資本主義 2018 BS1/競争社会、心が休まらない
 樹木希林（享年 75 歳）/私、役者をやるために人間やってるんじゃない、、
 美空ひばり/ひとすじの道、迷わず/最期の4ヶ月、やっと加藤和枝になれた
 武蔵と沢庵和尚/迷え、迷え、迷え、/迷うことは人の心を広くする
 美空ひばり/徹子の部屋/外見を気にする/しかし母の話になると、、
 歌・A Natural Woman / Carol King, Mary Jo & Furgie 2008 年日本武道館公演



樹木希林（享年 75 歳）